

潮音寺だより

第 280 号
平成 19 年 2 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11



撮影：正道

無比不思議

【出典】
『勝鬘經』

うかうか
せかせか
生きていると

無比

不思議なる

そこ

ここに

内在する

仏性に

気づけない

気づかせて

いただくう

あなたの中の

仏性に

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

三途商店街

年末から新年にかけて、衝撃的なニュースが相次ぎました。

一月三日の夜、東京都渋谷区の歯科医の長女の短大生がバラバラに切断された遺体で見つかり、翌日、「男の予備校生が、死体損壊容疑で逮捕されました。犯行動機は、妹に「努力していないから夢がかなわない」となじられた」からだといっています。

昨年十二月十六日、新宿区の上でビニール袋に入った上半身だけの遺体が見つかり、同二十八日には渋谷区の空家民家の庭で下半身を発見。遺体は外資系のエリートサラリーマンで、最初の発見から約一ヶ月経った一月十日、死体遺棄で二歳年上の妻が容疑者として逮捕されました。逮捕後、町田市

の公園で頭部を発見。手首は「三

と一緒に捨てたと供述。犯行動機は、DV（家庭内暴力）、不倫、離婚話、事件の背後には夫婦間のあらゆるトラブルが網羅されていて、「夫は一度として、真に『悪かった』という謝罪の気持ちになかった」「ひどい暴力を受け、いつか殺そう」と考えていた」と供述しているとか。

この二つの事件は、これまでの常識では考えにくい、あまり前例のない事件であります。どうしてこのような犯罪が起るようになったのでありましょう。

親子、兄弟姉妹、夫婦といった身内の人間関係は、易しいようで、なかなか難しいものです。ドイツの哲学者、シヨー・ペンハウアーが、『ヤマアラシのジレンマ』という寓

話を残しています。

あるところに、寒さに震える一匹のヤマアラシがいました。寄り添って温まりたいのですが、お互い全身が針で覆われています。だから近づくと針が刺さって痛く、傷つけあってしまいます。でも離れると寒くて仕方がありません。つまり、近づきたくても近づけないというジレンマ……。

なるほどおそろしくこちらの容疑者も、心が凍えるほど寒かったのでしょうか。そして、悲しいことに、自分がヤマアラシであることに気づいていかなかったようです。現代人は、このような傾向が強いのかも知れません。

ひとつ、こんなお話でも聴いていただきましょうか。

ひとりの男が、三途の渡し場近

くの商店街にやってきました。この商店街は、面白くない、同じ店が軒ずつ並んで商いをしています。レストラン、銭湯、旅行代理店といった店が、隣同士で同じ店構えで建っているのです。ただ、看板にはそれぞれ「極楽飯店」と「地獄飯店」、「極楽湯」と「地獄湯」、「極楽ツアー社」と「地獄ツアー社」といふ名前があります。

まず、「地獄飯店」に入りますと、ぎっしり食卓が埋まっています。向かい合つて食事をしています。ところが、ぎっしりわけが、皆さう長く箸を使つていて、自分の口に持つていこうとする隣の人は、「シンと並たります。隣の人は、何をすのー」と、拳高で返します。それが、あつちでもこつちでも、小突き合ひ、殴り合ひ、血みじく噴

嘩、食事のじじいではありません。

これはかなわなく、「極楽飯店」に入りますと、やはり、ぎっしり食卓が埋まっています。向かい合つて食事をしています。そして、同じように長い箸を使つています。ところが、皆が皆、和やかに食事をしています。不思議に思つてよく見ると、なほほしく、長い箸を上手に使つて、自分が食べるのではなく、向かい側の人に食べさせているではありませんか。

男は、「うーん」と感心しきり、腕組みしながら、「地獄湯」の暖簾をくぐりました。じじいも、ぎっしり人で埋まっています。そしてまた、「水がかかった」だの「桶が当たった」だの、「フーワー」「ギャーギャー」騒がしいの騒がしくないので、その内また

血みじく噴嘩、お風呂のじじいはありません。

早々にじじいも飛び出してきて、「極楽湯」の暖簾をくぐります。じじいも、ぎっしり人で埋まっています。しかし、じじいは皆が皆、語らい合ひ、和やかにお風呂に入っているではありませんか。不思議に思つてよく見ると、自分で体を洗つのではなく、きれいに並んで、前の人の背中を流しているではありませんか。

男は、「うーん」と、大ききつなずき、「地獄ツアー社」を通り過ぎ、「極楽ツアー社」に入つていきました……。

さて、いかがでしょうか。この世が、地獄になるのも、極楽になるのも、われわれの心の持ち方ひとつといふことでもあります。

竈 竈 ちやく

「熱した鉄の地上に横臥させ、金鉄で口を開け、熱した鉄丸やどろどろに熱した銅の液を口に流し込む。すると口やのどを焼き、内蔵を焼きただらせて肝門から出てくるという始末」深い悪業をなしたものが「こ」に到達するまでには、炎と獣と鬼の猛威の中を悶絶しながら、さかさまの状態で、二〇〇〇年もかかって地獄へと堕ちていく。

この炎とは自分の身を焼きつくすものの、阿修羅や鬼がつくり出したものではなく、自分が犯した悪業の結果であり、いま後悔してもどつにもならない。だれも自分を救うものはいないのです。

しみの世界をすべて説き明かすことも、わたくしたちが理解することもできないのです。その恐ろしさに耐えきれないほどの苦しみだからです。

地獄のことを、サンスクリット語でナカラといい、音訳が「奈落」ということになります。「奈落の底」とはこの「地獄の底」であり、地獄を意味するのです。

受験地獄や交通地獄、殺戮や環境破壊、「この世の地獄」という言葉がなんとも実感せずにはおれません。(ひろさちや『仏教監獄百科』)

雑記

▼不二家



あの「Milky Wayはママの味」の「不二家」が、期限切れ原材料使用問題で揺れています。

「不二家」は、一九二二年、日本初のショートケーキ販売を開始。一九五〇年、ペコちゃんをマスケットキャラクターに採用。翌五一年、キャンディーの「Milky Way」の販売開始。

団塊の世代の我々には、欧米の香りを運んでくれる「不二家」には、特別な思いがあります。それが、「雪印乳業」同様、その存続が危ぶまれています。残念です。

信用を築くには長年を要しますが、信用を失う時を要しない、ということでありましょう。

▼ツバキ

去年植え替えた椿が、ふつくと蕾を膨らませてくれました。ほっと、心も膨らんできます。

◆豆よりむつい手が

のびる恵方巻き 沐魚